



後期が始まりました

校長 加藤 憲司

秋風も冷たく初雪の便りも間近に迫る昨今となりました。

過日、実施した運動会では多くの保護者、地域の方々にご来校いただきありがとうございました。日頃の学習の成果だけでなく、学級の友達と協力することなど、多くの学びがあり、子供たちは大きく成長することができました。保護者や地域の皆様のアンケートも踏まえ、次年度、子供たちにとってよりよい運動会となるよう検討していきます。

また、足立小学校は10月14日から後期が始まり、令和7年度も折り返しの時期となりました。後期の始業式では、5年生の代表児童3人が児童代表の言葉を発表してくれました。前期の反省を踏まえ、後期に頑張りたいことを発表しました。全ての児童にとって、実りある後期になることを期待しています。

多様な子供たちを包摂していく必要性

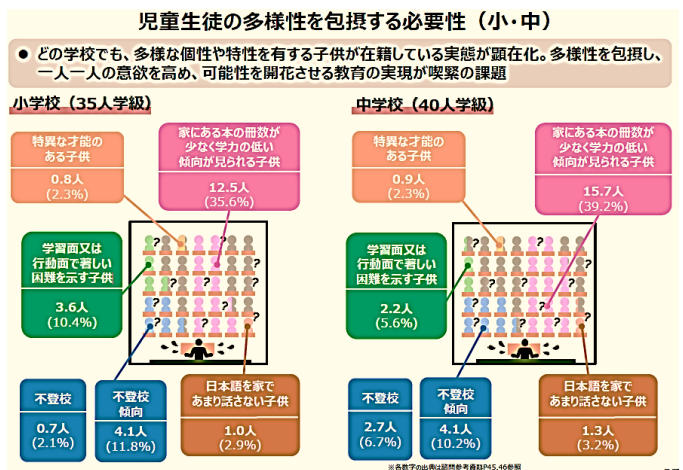
現在、国では令和12年度(2030年度)から小学校で実施される予定である学習指導要領(学校がどのように教育を行うべきかの指針)が検討されています。現在の学習指導要領は令和2年度(2020年度)から小学校で全面実施されており、およそ10年ごとに社会情勢等の変化に伴い改訂されています。

その検討の中で、「**児童生徒の多様性を包摂する必要性**」について議論されています。「包摂」とは、難しい言葉ですが、辞書によると「ある事柄を、一定の範囲の中に包み込むこと」とのことです。学校に置き換えると、特別な支援を要する子供や不登校やその傾向がある子供、日本語指導が必要な子供などを一つのクラスの中に包み込むこととすることができます。また、先月国から公表された資料によると小学校(35人学級)と中学校(40人学級)として「どの学校でも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化」していると示されています。

これまで足立小学校では、ひまわり学級や目の教室、ACR(コミュニケーションの教室)を設置する学校として、子供たちがそれぞれ異なった特性をもち、多様性があるということを大切に指導しています。今後も引き続き一層の充実を図っていくとともに、例えば、教室のレイアウト、教材の提示方法、教員の指導方法などをユニバーサルデザインの視点から工夫することで、特定の子供だけではなく、**すべての子供が理解しやすい、参加しやすい学習環境**を構築していくことや、子供が自分の考えを安心して表現できるといった「**心理的安全性**」が高い学校、学級を構築していくことも検討していきます。こうした土台があるからこそ、子供たちの主体性や協働性、創造性が十分に発揮される環境につながっていくと考えています。

次年度 of 自然教室の日程が決まりました

令和8年度の日光自然教室(6年)は、令和8年5月18日(月)~20日(水)、令和8年度的那須甲子自然教室(5年)は、令和8年6月1日(月)~3日(水)の予定です。5年は今年度に引き続き国立那須甲子青少年自然の家に宿泊する予定です。



https://www.mext.go.jp/content/20250925-mxt_kyoiku02-000045057_01.pdf